

千葉県青少年総合プラン推進に関する

# 意見・提言

平成 25 年度

千葉県青少年問題協議会

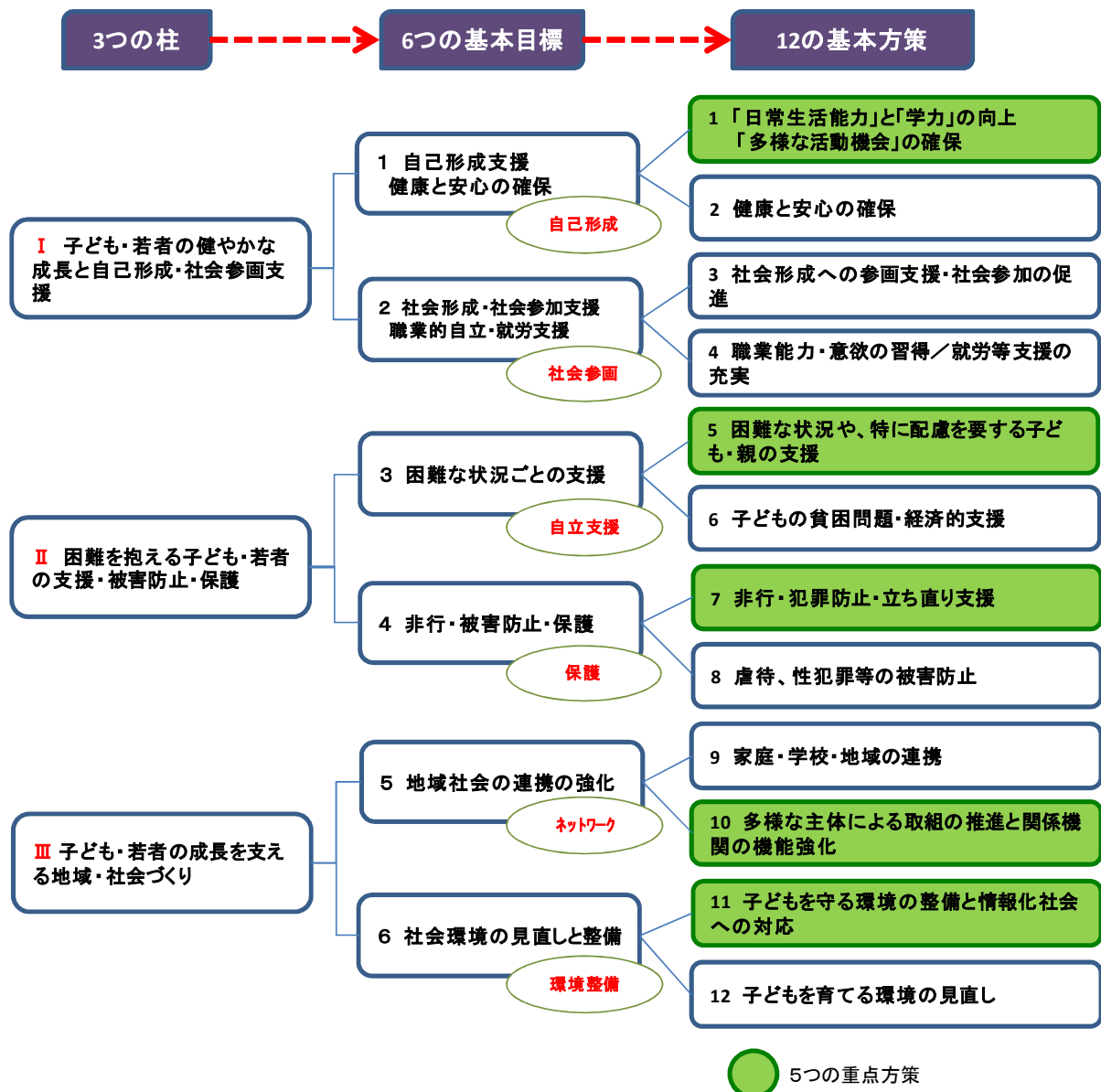
## ■本書の趣旨

本意見・提言は、平成24年3月に策定した「千葉県青少年総合プラン」（計画期間：平成24年度～26年度）において、平成24年度に実施した関連事業のうち、特に5つの重点方策事業に位置付けられている事業について検証し、力を入れてほしい、配慮してほしい点などについてとりまとめたものです。

個々の内容は、平成25年9月9日に開催された千葉県青少年問題協議会において行われた、委員と関係課との意見交換及び、各委員から事前に寄せられた御意見等を中心に作成しました。

この意見・提言が、本県の今後の青少年健全育成行政の推進の一助となれば幸いです。

## 千葉県青少年総合プラン 施策体系図



## I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援

### 基本目標 1 自己形成支援 健康と安心の確保

#### 基本方策 1

「日常生活能力」と「学力」の向上「多様な活動機会」の確保

#### (1) 道徳教育推進プロジェクト

- 常識の変化、家庭教育のあり方の変化から重要な事業であるので、研究校での実践成果を踏まえ、全ての学校で活用されることを期待する。

#### (2) ちばっ子『学力向上』総合プラン

- 学ぶ楽しみ、わかる喜びを十分に実感することこそが学校本来の目指すところであり、「相当の成果を上げている学校」の取組を公開し、目的を達成することを期待する。また「授業の達人」の増加と研修にも継続して力を入れていただきたい。

#### (3) いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」の実施

- 参加校の増加のため、指標の設定、種目と内容の見直し、学校間での競い合いについての検討を期待する。  
また、魅力ある種目を新たに考案することもよいと思う。

#### (4) 「体力づくり推進モデル校認定事業」の実施

- 実践発表の機会を作ったこと、目標を達成したことは良かったと思う。各教育事務所毎に数値目標を掲げて実施することを期待する。
- モデル校での成果をもとに他校への拡大を期待する。

#### (5) 千葉県競技力向上推進本部事業

- 国体の成果を活かし、県民の競技力向上に資することを期待する。
- 地域によって温度差がある。スポーツ施設がないと、取組が弱くなる。施設の充実、体育協会の指導者の活用にも積極的に取り組む必要がある。

#### (6) 千葉の食文化まるごと体験

- 郷土料理を伝承していくことは大切なことと思われる。千葉の農水産物を使った、若い人々に興味を持ってもらえるような新しい食文化を作っていくことも必要である。

#### **(7) 千葉フィールドミュージアム事業**

- 募集に当たり、若者（年齢制限等）等の限定がなければ、中高齢者が応募してもやむを得ない状況になる。募集方法への工夫が必要なのではないか。
- 広く青少年団体等にも広報することを期待する。

#### **(8) 放課後子ども教室推進事業の子どもの居場所づくり**

- 待機児童問題を抱える保育所と同様に、放課後ルーム等の子どもの居場所は大変重要である。施設、指導員等の質の向上を目指し、今後とも充実されるよう期待する。
- 学校と地域の連携により、子どもの安全・安心な居場所づくりが進んでいる様子であり、更なる広がりと内容の充実を期待する。
- 男女共同参画、女性の働く機会の増強に繋がる事業で継続・拡大する必要がある。
- 特にスポーツについては、学校の体育館を市民団体に開放しているのだから、利用団体との協力関係を構築することについての検討を期待する。

#### **(9) 青少年教育施設における自然体験・生活体験活動の推進**

- 目標値達成度 98%の努力は認められる。養成した指導者が多くの現場で活動できるように、また、活動の場を作ることを期待する。

#### **(10) 週末ふれあい推進事業**

- 参加者が好む団体活動へと進んでいくことを期待する。
- 施設・設備の老朽化が心配される。より利用しやすい施設環境の向上を目指すことを期待する。

#### **(11) 青少年教育施設の運営**

- 利用者の数値目標を提示することを期待する。
- 県立の 5 所のみならず、千葉市立少年の家等も含めた一層の交流を図ることを期待する。

#### **(12) 子どもの読書活動推進事業**

- 活字離れ、コミュニケーション能力不足など指摘される今、「読書」は子どもの成長に大切な心の栄養である。子どもにとって重要な事業であるので、本事業の継続及び積極的な推進と、ボランティアの方々の活動の場の拡大等に更なる努力を期待する。

#### **(13) 通学合宿推進事業**

- 保護者にとっても、児童生徒にとっても、経験させたい、したい重要な事業である。ボーイスカウト、ガールスカウトなどの機関と連携する等、スタッフの養成確保に工夫され、参加者の増加に努力する必要がある。

- 青少年教育施設を県立以外に市町村立にも協力要請するなど、事業の継続・推進を期待する。

**(14) 学童期からの生活習慣病予防事業**

- 「早ね、早おき、朝ごはん」のキャッチフレーズは浸透しているが、各家庭での実行はなかなか困難。長期継続して努力・推進されることを期待する。

**(15) ちば食育活動促進事業**

- 県民自らの行動や実践にいかに関わりつけていくのか、継続して努力されることを期待する。

**(16) いきいきちばっ子食育推進事業**

- 農業、漁業の盛んな千葉県らしい特色ある食育活動になるよう工夫されることを期待する。

**(17) 豊かな人間関係づくり推進事業**

- 社会の変化、遊びの変化等で人間関係、コミュニケーション方法も激変した今、重要な施策である。プログラムの実施により、児童・生徒への良い影響が見られるよう努力されることを期待する。
- 小学校低学年、特に新入児童等への施策が重要だと思われる。いじめが起こらないよう期待する。

**(18) 男女共同参画センター「男女共同参画講座等」の開催**

- これからの男女共同参画社会を生きる若者にとって、重要な事業である。広報のあり方に工夫が必要である。
- 講座等の開催について、ウィークデーの開催は参加しづらいため、できるだけ土曜日・日曜日の開催を期待する。
- 女性の社会進出が叫ばれて久しいが、男女の格差は縮まらない。共同参画の大切さを周知することを期待する。

## Ⅱ 困難を抱える子ども・若者の支援・被害防止・保護

### 基本目標 3 困難な状況ごとの支援

#### 基本方策 5

#### 困難な状況や、特に配慮を要する子ども・親の支援

#### (19) 子ども・若者育成支援推進事業

- 本問題に組織的に、専門家として対応できる機関や団体は少ない。密な連携と人材の育成への努力に期待する。
- この問題で困っている家庭は多いと思う。家庭の力では、どうにもならないことが多いので、社会の支援体制を充実させることが必要である。
- 「ライトハウスちば」について、相談件数だけの積み重ねではなく、地域の実情を踏まえつつ紹介先においてその後相談者はどうなったか、ということがわかるようになることを期待する。
- ライトハウスちばの活動を見つつ、その拡大等を検討し、推進していくことが必要である。
- このような支援機関のニーズは大きいと思うので、もっと活用されるべきである。
- ホームページのアクセス件数が少ないことから、継続した広報活動など更なる周知が必要である。

#### (20) 障害者条例関連事業

- 今後も千葉県が率先して取り組み、条例の周知のみならず生活しやすい環境づくりを実践することを期待する。

#### (21) ひきこもり地域支援センター事業

- 大変重要な事業である。学校を卒業した後の支援に手が届かず悩んでいる人も多いので、アウトリーチの対応ができるよう期待する。

#### (22) 訪問相談担当教員の配置

- 不登校の話は身近によく耳にする問題である。引き続き継続を期待する。
- 訪問相談担当教員の方々は、大変よくやっていると思う。スーパービジョン等による指導・助言はもちろん、バーンアウトしないようにケアも必要である。

#### (23) 不登校対策推進校の指定

- 不登校が社会問題としてクローズアップされて 20 年が経過している。にもかかわらず、教職員の共通理解の不足や意識の差が問題となっている。担当者の苦労は大変かと思われるが、一層の努力を期待する。
- 学校に不応適を起こしやすい子ども達の、小学校・中学校・高校の流れをどうフォローアップするかという視点を期待する。

- 「訪問相談担当教員の配置事業」とも連携して推進することを期待する。

**(24) 問題を抱える子ども等の自立支援に関する調査研究  
(国の委託事業「生徒指導・進路指導総合推進事業」)**

- 不登校問題は家族関係の悪化、家族の心身の健康問題も引き起こす問題である。更なる調査研究の充実を期待する。
- 「訪問相談担当教員の配置」「生徒指導専任指導主事の配置」「不登校対策推進校の指定」の各事業とも関連する課題であるので、連携しての推進を期待する。

**(25) 特別支援アドバイザー事業**

- 発達障害等の問題は対応する人材も少なく、教育の現場や家庭においても大変困っているのが実情。ニーズに応えるには予算と人の手当てである。課題の早急な解決への努力を期待する。

**(26) 特別支援教育コーディネーター研修**

- 事業の成果を毎年達成できるように事業推進して欲しい。対応できる教員の増員を期待する。

**(27) 教育相談事業の充実**

- 大変ニーズの高い事業だと思うので、相談件数の増加、相談内容の多様化を考えると、相談員の増員と資質の向上を期待する。
- このような相談ニーズはますます高まっていくと思われ、対応する体制を整えていく必要がある。

**(28) ちば地域若者サポートステーション事業**

- 短期間に成果を期待できにくい事業であるが、窓口をゆるやかに根気よく長くかかわることも必要。数字に左右されることのない取組を期待する。

## Ⅱ 困難を抱える子ども・若者の支援・被害防止・保護

### 基本目標 4 非行・被害防止・保護

#### 基本方策 7

#### 非行・犯罪防止・立ち直り支援

#### (29) 青少年非行防止対策事業

- 今求められている重要な事業の一つであるので、取組の強化を期待する。
- 関係機関の取組により、危険性について家庭でも理解されてきていると思われるが、有害サイトの規制について更なる取組を期待する。

#### (30) スクール・サポーター制度

- 大変ニーズの高い事業であり、学校としても要請が多いと思う。職員の増員と資質の向上を期待する。
- 家庭だけに任せるのは無理である。警察だけでなく、教育庁等を含め地域の温かい目で叱ってあげるといった点に目を向けることに期待する。

#### (31) 少年サポート活動の推進

- 教育庁と県警の関係課が協力して子どもの生命を守り、規範意識を醸成するといった取組を期待する。

#### (32) 薬物乱用防止対策事業

- 児童生徒への防止教室の充実を期待する。
- 一度、中毒に陥ったら治すことの難しいのが薬物。学校の授業の中でも繰り返し教えられることを期待する。



### Ⅲ 子ども・若者の成長を支える地域・社会づくり

#### 基本目標 5 地域社会の連携の強化

##### 基本方策 10

##### 多様な主体による取組の推進と関係機関の機能強化

#### (33) 青少年育成団体への活動支援

- 単なる補助金交付の事業ではなく、各団体の活性化と事業内容の創意工夫が図られるよう県は団体に働きかけ、今後も青少年の健全育成に資するような事業内容になることを期待する。

#### (34) 学校と NPO との連携促進事業

- 学校は本来の教育以外に様々な満足、教育をすることを期待されている。それらを得意とする NPO があれば、学校は積極的に活用し、双方が学び合い助け合うことで教育内容の広がりにも貢献できることを期待する。

#### (35) 千葉県青少年協会助成事業

- 千葉県青少年協会が多くの事業を創意工夫して展開されていることは敬意を表したい。教育委員会関係の事業と同様の事業もあることから、より特徴を生かした事業の個性化も必要である。
- 「私の思い～中学生の主張」は素晴らしい事業である。更に、参加校数の広がりも期待する。
- 市町村民会議が県内全市町村に設置され、県民会議と連携していくことを期待する。

#### (36) 青少年相談員設置事業

- 研修会への参加によって、お互いが刺激し学び合い、各地域での日頃の活動が活性化されることを期待する。
- 青少年相談員の活動内容が広く一般に浸透するよう、広報活動の充実を期待する。

#### (37) 青少年補導センター事業

- 青少年の遊びの変化、家庭環境の変化等で非行のあり方も変化している。地域で見守る努力を今後とも継続されることを期待する。
- 県内に 30 以上の市がありながら、19 市にしか青少年センターが設置されていないことは残念。青少年総合プランを実践する上でも設置を期待する。

## 基本目標 6 社会環境の見直しと整備

### 基本方策 11

#### 子どもを守る環境の整備と情報化社会への対応

#### (38) 防犯意識を高める広報啓発事業

- 町内会における回覧板の活用、町内会総会における広報活動、学校における万引等の講演会など県民の関心は高い。効果を数値化できないが継続することが必要である。

#### (39) 自主防犯団体トップリーダー養成事業

- ボランティアの高齢化を嘆くことより、60歳以上の退職者（若手）の育成が大切。トップリーダーの活動状況をもっと県民が知る機会も必要である。
- 防犯ボランティアは、比較的高齢でも体力・気力が元気であれば良いと思う。団塊の世代が年金生活に入るので、この人たちに活躍して頂くことを期待する（65～75歳、10年は活躍できる）。

#### (40) 地域の防犯力アップ補助事業

- 13市町の取組の発表等、お互いに刺激し合って学び合う取組も大切。補助金の活用方法をきちんと把握することが必要である。

#### (41) 安全で安心なコミュニティ推進事業

- 実施する市町村が拡大しないのは何故か。市町村が取り組めるようなシステムづくりの検討が必要である。
- 登下校時の痛ましい事故が後を絶たない状況。本県が、安全・安心な県となるよう、継続実施していくことを期待する。

#### (42) ちばっ子安全・安心推進事業

- 現状での実践校数を踏まえ、早急に実践校の増加を期待する。

#### (43) 青少年の社会環境づくり事業

- 「知らなかった」という無知が不幸を生み出すこともある。条例の周知に今後とも取り組んで頂きたい。「関係機関への配布」について、より効果的な方法の検討も必要である。
- 継続実施して、「青少年ネット被害防止対策事業」とともに推進していくことが必要である。

#### (44) 青少年ネット被害防止対策事業

- ネットによる被害が増加している現状で、ネットパトロールの役割は大きいと思われるので、監視を続けていくことを期待する。

#### **(45) 暴走族総合対策の推進**

- 「検挙者は全て少年であった」ことから、事業の重要性が理解できる。検挙、離脱後の指導・相談も大事で再発を防ぐ努力にも期待する。

#### **【その他】**

- 海外では、高齢者対策、子どもの保育、若者の居場所、世代間の文化の享受という、複数の目的を融合した形での居場所づくりがうまくなされている例がある。そういったように、事業ごとにパイプのようなものをうまく作ることができれば、予算執行の面からも有効なのではないか。

千葉県青少年問題協議会委員名簿（平成 26 年 3 月 31 日現在）

	氏 名	役 職 名
1	森田 健作	千葉県知事
2	明石 要一	千葉大学名誉教授
3	井内 清満	NPO 法人ユース・スペース・センター友塾塾理事長
4	白崎けい子	聖徳大学心理・福祉学部教授
5	諸富 祥彦	明治大学文学部教授
6	有馬 和子	ちば女性と子どものスペース・センター代表・臨床心理士
7	萩原 博	(株)千葉日報社代表取締役
8	武田 正光	千葉県議会環境生活警察常任委員長
9	田中 敏政	千葉家庭裁判所家庭裁判所調査官
10	澤田 和子	(公財) 千葉県民生委員児童委員協議会評議員
11	片寄 朗	千葉県 PTA 連絡協議会副会長
12	木名瀬訓光	千葉県青少年相談員連絡協議会会長
13	鈴木 國夫	千葉県青少年団体連絡協議会会長
14	富山 勝夫	千葉県青少年補導員連絡協議会会長
15	鈴木 明美	(公財) 千葉県青少年協会理事